

伊佐良次  
(准教授)

## Ryoji Isa

■ **略歴**: 沖縄県出身。中央大学大学院経済学研究科修士課程修了。修士(経済学)。

■ **専門分野**: 環境経済学、観光経済学

■ **担当科目**: マクロ経済学、観光産業論、観光経済学/観光経済論、演習I・II、初年次ゼミ

## ひと言

地域政策学部で観光を学ぶメリットは、各先生のご専門が十人十色で、幅広い選択肢から自分にあった学問的アプローチを選べること。だからこそ、自分の関心や問題意識をできるだけ明確にして、ゼミを選択しましょう。ちなみに、見出しのフレーズはお薦めの曲のタイトル(RHYMESTER、2013年)。

## 私の研究テーマ

## 経済学の考え方

皆さんはなぜ高経大生になることを選んだのでしょうか。もし沖縄に旅行したことがあれば、数ある観光地の中からなぜ沖縄を選んだのでしょうか。進路と観光地の違いはありますが、多くの「選択行動」を理解する学問が、経済学といっても過言ではないでしょう。私はその経済学を専門として、「持続可能な観光(経済発展と環境保全を両立する観光)」をテーマに研究を進めています。

## なぜ「持続可能な観光」を研究するのか

一般に、観光客の増加は、経済効果をもたらす一方で、環境悪化という負の効果を引き起こすと言われています。増加した観光客の大半が、「旅の恥はかきずて」型であれば、自然環境への配慮を欠いた行為に及ぶかもしれません。他方、「立つ鳥あとを濁さず」型であれば、負の効果を重視して、観光客を減少させるべきと主張するでしょう。全ての観光客が同じ主張をすれば、地域経済は立ち行かなくなります。そうすると、地域の疲弊化が進み、地域住民の管理によって守られてきた自然・文化が失われるおそれがあります。

実際に、観光地が持続可能な観光を

実施するためには、観光が地域に与えるメリット・デメリットを測ることが重要です。その両面の指標を提供することが私の研究であり、その研究結果が地域住民はもろろん観光客も満足できる地域政策の一助になれば、これほど嬉しいことはありません。

## 相手を意識した選択行動

皆さんはこれから、多くの選択行動をします。経済活動であれば、経済学が役に立つと思います。ゼミや就職先の選択にも役立つかもしれません。その前に、日頃から志望理由が説明できるための努力をお忘れなく。面接では、選ばれる立場になるので、相手に伝わる言葉を選びましょう。

## ゼミの活動内容

伊佐ゼミでは、観光経済学や環境・資源経済学の分析手法を身につけて、ゼミ生が関心ある課題(例えば、持続可能な観光や地球温暖化)を研究することを目的に活動を行っています。4年間の主な活動は次のとおりです。

- ① 2年次後期・学生から要望があれば、ブレゼミ(基礎ゼミ)を行います。
- ② 3年次前期・経済学のテキストを輪読します。また、各自の関心ある課題を考慮してグループを設定し、共通テ

マで共同論文の作成・報告を行います。

- ③ 3年次後期・共通テーマで共同論文の作成・報告をします。また、共同論文を踏まえ、卒業論文のテーマを確定します。

- ④ 4年次前期・就職活動を考慮しつつ、卒業論文の中間報告を行います。

- ⑤ 4年次後期・卒業論文の中間報告を重ね、卒業論文を提出・発表します。

ゼミでの研究(調査や論文の作成)は「楽しい」というより、「楽しむ」ものだと私は考えています。研究を楽しむためには、勉強と息抜きが必要です。勉強を地道に続けると、自分の研究の位置づけ(役割)が少しずつ分かり、調査や論文の執筆が楽しみになるでしょう。息抜きを具体的に挙げると、飲み会、カラオケ、ボウリング、寄席(落語)で笑うことなどです。希望があれば、これらの息抜きを定期的に行います。

